



六ヶ所村の魅力を発掘・発見・発信！

## 村の主な生業の歴史は？

泊地区は、江戸時代には「アワビ」が有名。長崎俵物として琉球や清まで輸出されていました。明治時代はカツオ、大正・昭和に入りイカが有名になります。村内では明治30年代から昭和8年ごろまで、イワシ漁が盛んになり、出稼ぎに行かなくてもよかったです。地引網漁の曳き子として、各地から移住してくる人々がいました。イワシは煮て〆粕(肥料)として出荷し、各地区に有力な網元が現れました。

尾駁や平沼では、江戸時代から大正時代までニシンを捕るマテ漁が行われ、現在は、高瀬川でマテ小屋(観光用)を見ることができます。



泊:カッコ船によるアワビ漁



新納屋:地引網漁 昭和48年

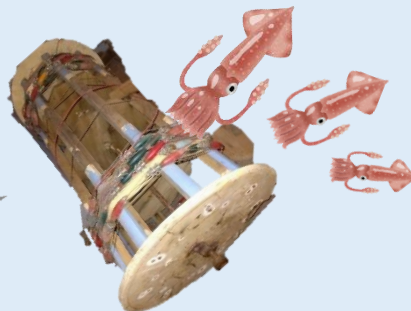


高瀬川:マテ小屋



アワビヤス(上)、アワビカギ(下)

11月から2月まで、丸木舟やカッコ船に乗り、箱メガネで海底を見ながら、三本ヤスでアワビを突き、突いたアワビをアワビタモに入れてとっていた。ヤスで突くとアワビに穴があき、値が下がってしまう課題があった。アワビカギは、岩からアワビをひっかけてとる道具。



ドラム巻き式イカ釣り漁具(左) イカ釣り 昭和34年(右)

昭和33年(1958)ごろ、「ドラム巻き式」の漁具が開発され、個人の釣りの技能差がなくなる。船には、14、5人が乗り込んで回していた。その後、昭和43年(1968)、泊に全自動イカ釣り機が登場し労働者不足を補い、漁業操業形態を一変させた。

